

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	群馬県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	沼田市立沼田南中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	3	3	1	9	18
生徒数	78	84	84	3	249	

研究の概要

1. 研究主題

<p>基礎的・基本的な内容の定着を目指した学習指導の改善 ～ 個を伸ばす指導方法の工夫を通じて ～</p>

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

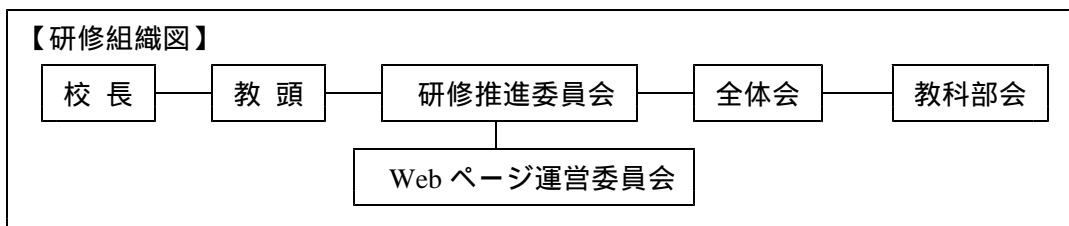
<p>1年生・数学、英語 生徒の理解の状況に差が出やすい教科・学年であるため、数学科では2学級を3つの学習集団の編成、英語ではそれぞれの学級を2つの少人数集団に分け、きめ細かな指導を行い、差の出現を最小限におさえる。</p> <p>3年生・数学 生徒の理解の状況に差が出ている教科・学年であるため、各学級を2つの少人数集団に分けて習熟度別学習を行うことを目的とする。</p> <p>2年生・数学 各学級をTTで指導し個別指導の徹底を目的とする。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 基礎的・基本的な内容の定着を目指した学習指導の改善 ～ 個を伸ばす指導方法の工夫を通じて ～</p> <p>研究の見通し</p>																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>研究内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>研究主題の設定、内容・計画の検討、組織の決定</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>生徒の学力に関する実態把握、教員同士の他教科参観、指導主事訪問</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>個を伸ばす指導法の検討、学力向上・評価等基礎研究</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>個を伸ばす指導法の実践とデータ収集</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>1学期の反省と指導法の再検討</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>個を伸ばす指導法の実践、Web ページ作成のための研究</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>指導主事訪問、学校公開日、Web ページ開設作業</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>個を伸ばす指導法の実践</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>研究成果の分析、生徒の変容の分析</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>研究紀要の原稿執筆、まとめ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>次年度の教育課程の検討、選択教科の基礎研修</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>次年度の研究計画の検討</td> </tr> </tbody> </table>	月	研究内容	4	研究主題の設定、内容・計画の検討、組織の決定	5	生徒の学力に関する実態把握、教員同士の他教科参観、指導主事訪問	6	個を伸ばす指導法の検討、学力向上・評価等基礎研究	7	個を伸ばす指導法の実践とデータ収集	8	1学期の反省と指導法の再検討	9	個を伸ばす指導法の実践、Web ページ作成のための研究	10	指導主事訪問、学校公開日、Web ページ開設作業	11	個を伸ばす指導法の実践	12	研究成果の分析、生徒の変容の分析	1	研究紀要の原稿執筆、まとめ	2	次年度の教育課程の検討、選択教科の基礎研修	3	次年度の研究計画の検討
	月	研究内容																									
	4	研究主題の設定、内容・計画の検討、組織の決定																									
	5	生徒の学力に関する実態把握、教員同士の他教科参観、指導主事訪問																									
	6	個を伸ばす指導法の検討、学力向上・評価等基礎研究																									
	7	個を伸ばす指導法の実践とデータ収集																									
	8	1学期の反省と指導法の再検討																									
	9	個を伸ばす指導法の実践、Web ページ作成のための研究																									
	10	指導主事訪問、学校公開日、Web ページ開設作業																									
	11	個を伸ばす指導法の実践																									
	12	研究成果の分析、生徒の変容の分析																									
	1	研究紀要の原稿執筆、まとめ																									
	2	次年度の教育課程の検討、選択教科の基礎研修																									
	3	次年度の研究計画の検討																									
<p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上にむけた研究体制の確立 ・数学、英語における少人数や TT による個を伸ばすきめ細かな指導法や教材開発の工夫 ・他教科では個を伸ばす指導法や教材開発の工夫 ・生徒の学力に関する実態把握と分析 ・Web ページによる情報発信のための研修 																											

平成16年度	<p>テーマ 基礎的・基本的な内容の定着を目指した学習指導の改善 研究の見通し 数学科、英語科を中核として全教科で個を伸ばすきめ細かな指導の充実に向け、指導法の改善、充実及び教材の開発に努める。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導、ITによる指導方法と教材開発 ・選択教科のカリキュラム改編 ・小中連携による基礎学力向上の取組 ・公開授業による研究成果の普及 ・Web ページによる情報発信の強化 ・総合的な学習の時間の充実
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

個を伸ばすためのきめ細かな指導法や教材開発を行うために、各教科部会が生徒の実態を検討し、学力向上のための指導方法の工夫について具体的な方策を提示することができた。

上記の具体的方策をもとに、各教科で指導を開始した。他教科参観週間を設定し、教師相互の授業公開を実施した。そのことにより、他教科の取組を理解し、教師相互の情報交換を図れるようになった。また、他教科の取組を参考にし、自らの教科の指導法や教材開発を改善する雰囲気が生まれた。

研修内容を外部に公開するための方法として、Web ページの研修を行い、公開の準備ができた。

指導で使用した資料、指導案などを公開のために蓄積することができた。

2. 今後の課題

指導法の改善は実施され、それにともない生徒の実態の変容を把握する必要があるが、客観的に把握する方法がまだ明確ではない。研修内容を外部に公開していくためには客観的なデータが必要である。

先進校の視察、小学校との連携を強化していく必要がある。

来年度からの選択教科の内容と改編のための基礎研修をしていく必要がある。

Web ページによる情報発信の準備作業は始まったが、迅速な公開のためにさらに作業を進める必要がある。

学力把握のための学校としての取組

教研式標準学力テスト (NRT)	1～3年 (4月)
教研式標準学力テスト (CRT)	2年 (2月)
観点別評価のA～Cの出現数の分析	1～3年 (4月、8月、1月)
定期テスト	1～3年 (学期2回、3学期のみ1回)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

学校公開日（10/20）、保護者、地域の方々、他の学校の教員を対象に、学校公開（授業公開）を実施した。当日は、少人数や TT の授業を多く組み学力向上の取組を公開した。
指導主事訪問（10/29）で実施した英語の授業を小学校の教員を対象に公開した。小中の情報交換と連携を目的とした。
Web ページによる取組の公開（現在準備中）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無